

縄文の炎 縄文の音

魂の縄文ビッグバン

第41回

秋の縄文野焼き祭り

猪風来美術館(新見市法曾陶芸館)20周年記念特別企画

10/12 sun.
2025

9:00~17:00

※雨天の場合は13日に順延

入場無料
要予約
先着250名

村上原野に捧ぐ
土取利行・縄文鼓ライブ



土取 利行

予約フォーム
こちら⇒



日 時：2025年10月12日(日) 9:00~17:00

※雨天時13日

会 場：猪風来美術館前広場

料 金：無料(要予約/先着250名)

※館内見学は要観覧料

駐車場：近隣3ヶ所有り

※なるべく乗り合わせでお越しください

送 迎：JR伯備線方谷駅から送迎あり

内容

◎第一部

縄文野焼き 9:00~15:00

縄文野焼き大賞(焼き上がった作品から選考)

縄文大地の精霊ダンス(みんなで)

◎第二部

縄文鼓ライブ 15:30~17:00

※昼食・飲み物の販売をいたします。

【お問い合わせ・申込】



<https://www.ifurai.jp>



猪風来美術館

新見市法曾陶芸館

〒719-2552 岡山県新見市法曾609

Tel/Fax: 0867-75-2444

主催/ 猪風来美術館(新見市法曾陶芸館)・法曾焼同好会・開館20周年記念縄文野焼き祭り実行委員会

共催/ 新見市・新見市教育委員会

後援/ RSK山陽放送・朝日新聞岡山総局・月刊タウン情報おかやま・山陽新聞社

第41回 秋の縄文野焼き祭り&土取利行・縄文鼓ライブ

縄文の炎・縄文の音〜魂の縄文ビックバン

1万5千年以上前の日本列島に生まれた「縄文」は、造形美と豊かな精神性を内包し花開きました。自然に依拠し豊かな精神性を内包した争いのない時代、自然と共に生き、縄文文様には生死再生、大地に生命満ち溢れますようにという祈りが込められています。窯のない野炉で、太陽と風と火の力によって土器・土偶を焼き上げる「縄文野焼き」は、大地に抱かれて生きる縄文スピリットの真髄そのもの。猪風来美術館は開館以来20年にわたり現代縄文創作作品の展示や縄文スピリットを伝える陶芸教室や縄文野焼き祭りを開催、以来縄文の炎は多くの方々の熱い想いを内包して燃え続けてきました。当日は縄文の心と技を学び、命と魂の縄文造形・縄文文様を施した作品を皆で焼き上げます。

中国山地の山あいには立ち昇る縄文野焼きの炎と、縄文鼓の音の波動
それは古来縄文の魂を今の世に蘇らせ未来を拓いていく狼煙!

【土取利行氏の縄文鼓を迎えて】

縄文造形家 猪風来

“縄文の音”“洞窟の音”を復活させた土取利行さんの諸行は深く私の心をとらえます。音を楽しむ心の世界で、縄文から旧石器時代のあらゆるシーン・事象の音に耳を澄ませ、その音の心的霊的な正体をつかみ取り音楽世界に飛翔する。その半端ではない世界的学識と経験と心象から紡ぎ出していく有り様に私は感服させられる。これはどのような時代の“音”にも共振できる“音の魂”をもった土取さんならではのもの。万年の遠い時空に存在する根源的な精神世界の真理を体感しつつ音楽的に表出させる、類まれなる能力者シャーマンのなせる業だと思う。2025年猪風来美術館「秋の縄文野焼き祭り」にて、縄文の炎の子宮から産まれる縄文土器・土偶・オブジェたちと燃え上がり渦巻く炎。連動して打ち鳴らされる縄文鼓の響きは、現代に蘇った縄文が今日の文明の破壊的暴走を大転換させ、未来を照らす縄文の大きなスパイラル波動を呼び起こせるのではないかと希望がわいてきます。



「出産A」猪風来 1988年

【土取利行・縄文鼓復元プロジェクト】

縄文土器といえば、ダイナミックな形状で口縁が波打っているものが殆どだが、そのなかに珍しく口縁が水平で頸部に隆起した帯があり小さな孔が一行ついているものがある。「有孔罎付土器(ゆうこうつばつきどき)」と呼ばれるこの種の土器は、その機能用途についてさまざまな議論を呼んできた。縄文土器研究の第一人者、山内清男博士を筆頭に、これを動物の皮を張って太鼓として用いたという説があったが、一方では蓋をして醸造器として用いたのではないかと説も出されていた。

土取利行は音楽家としての直感からこれを縄文時代の太鼓と捉え、十年余に及ぶさまざまな調査・研究を重ねた上で、考古学者の小林達雄氏を監修者に迎え、各地から出土した有孔罎付土器を陶芸家、考古学者、美術家たちがこのプロジェクトのために復元製作。世界各地の太鼓の民族例を熟知した土取が地元で得た鹿皮が皮膜として張った「縄文鼓」を復元した。この復元した「縄文鼓」は、1990年8月にハヶ岳山麓の縄文遺跡で深夜から早朝にかけて土取によって演奏され、4500年の時の流れを超えて縄文の音霊がハヶ岳の山麓に響き渡った。



土取 利行

■縄文鼓演奏およびレクチャー・対談■

◎1990年 ハヶ岳山麓矢石遺跡で初の縄文鼓演奏。NHK・ETV特集にてドキュメント番組「縄文の音を求めて」が放映され、演奏が「森の音霊」としてBSで放送される。(後にレーザーディスク化) ◎1991年「森林の音霊」縄文鼓コンサート。ラフォーレミュージアム赤坂、飛騨古川町気多若宮神社境内で開催。福島県立博物館の「縄文絵巻展」で縄文鼓演奏と対談(小林達雄)。◎1992年NHK番組「ミステリーゾーン飛騨」で篠田正浩、小林達雄、内藤正敏、鎌田東二らと対談し、位山で縄文鼓演奏。◎1995年 彩の国さいたま芸術劇場開館一周年記念特別企画「時空のかげ橋」を企画構成し、メキシコの古代楽器グループ、トリブと「ネイティブ・ドリーム」と題し縄文鼓と古代メキシコ楽器の共演をする。(この共演は後にメキシコシティの人類博物館でも実現される) ◎1997年 長野県さしなの里歴史資料館、野外コンサート「縄文の音霊」で演奏。◎1998年 縄文鼓演奏と対談(名久井文明) ◎1999年 本邦初の縄文音楽論「縄文の音」(青土社)を上梓。長岡の新潟県立歴史民俗博物館オープニングイベントで縄文鼓野外コンサート。◎2000年 筑紫哲也「ニュース23」ミレニアム特集で、縄文鼓を古野ヶ里遺跡で演奏。金沢市民芸術村アート工房でレクチャー「縄文の音を語る」。◎2000年 パリのシャトレ劇場で縄文鼓初演奏。これによりフランス考古学者との交流が始まり、旧石器時代の壁面洞窟での調査、演奏を開始する。◎2001年 世田谷美術館の勅使河原蒼風展で縄文鼓演奏。◎2002年「縄文鼓とアイマソング」(香川県民ホール)で安東メ子、OKIと共演。◎2007年 那須二期倶楽部、二期の森にて縄文鼓演奏。◎2011年 那須二期倶楽部、山のシュレにて「縄文、音とわたちの原風景」で猪風来と共演。

■土取利行 1950年、香川県生まれ。音楽家、パーカッションリスト。ピーターブルック劇団音楽監督。



【アクセス】

- 岡山から車で約90分
- 岡山空港から車で約70分
- 賀陽ICから車で約45分
- 新見ICから車で約30分
- 井倉駅からタクシーで約15分
- 方谷駅からタクシーで約10分



猪風来美術館
新見市法曾陶芸館

〒719-2552 岡山県新見市法曾609
Tel/Fax : 0867-75-2444

